

●CONTENTS●

1. 学生による授業評価について
2. 学園中期基本計画策定される／新キャンパス計画に期待・インターネット講習会
4. 就職・平成8年度公開講座開催について
6. 日本初の降雨ロケット発射！
8. 卒業研究テーマ一覧・青木君金賞受賞
10. 教員の学外研究助成金・受託研究等
12. INFORMATION／学生課・学位取得

1997.3.26

大同工大 DAIDO CAMPUS

No.20

キャンパス

編集・発行 大同工業大学広報室 〒457 名古屋市南区瀬戸町10-3 TEL052-612-6117(直)

学生による授業評価は 何をもたらすか

学長 堀井憲爾



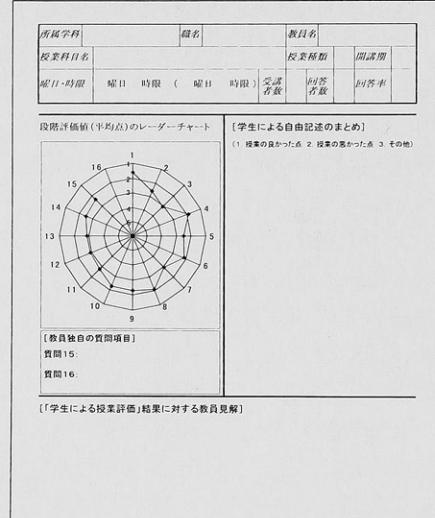
本学最初の学生による授業評価が、学生諸君と教員各位の協力によって、まずはアンケートという最初のステップを終わったことに謝意を表したい。いつも評価されるばかりの学生諸君にとっては、評価することの大変さを、一方、先生方にとっては、逆に評価されることの厳しさを、それぞれ味わったことは、貴重な経験であったと思う。

日頃の先生方も休講の実態や、学生の出欠状況を知らない私としては、アンケートが実施された授業科目数が、開講全科目数の95.5%に達したことに安心すると同時に、未使用のアンケート用紙の山を見ても学生の欠席の多さに胸を痛めている。

アンケートは電算機処理の途中であるが、

これから結果の検討を進めて、授業の改善・充実にどう結びつけていくか、大学の姿勢が問われている。まじめにアンケートに答えてくれた多くの学生諸君の熱意に応えるためにも、結果はしっかりと受け止めて、反省すべき点は改めていかなければならない。

授業は決して楽しいものばかりではない。基礎科目ともなればなおさらである。しかしそれを克服してしっかり勉強しなければ、一人前の社会人・技術者にはなれない。かといって、授業が難し過ぎたり、興味が持てないというのは困る。学生にわかりやすく、興味を持てるように、先生には絶えず工夫してもらうと同時に、学生諸君も積極的に授業に参加してほしい。



報告用紙

アメリカの大学では、盛んに学生から質問ができる。日本でも、最近はやりの社会人参加の授業では、質問で先生が立往生する事があるという。そのように、学生と先生が一体感を持って授業できることが理想である。それに向かって、アンケートの結果を糧に、授業の改善を着実に進めていきたいと念願している。

学生による授業評価の実施について

自己点検評価委員会委員長 美濱和弘

く3段階からなっています。

第1段階はアンケートの実施であり、各教員がシラバスに従い独自の方法・工夫により進めている授業に対して、学生がその授業を質問項目ごとに5段階で評価したり、自由意見を記述したりするものです。

第2段階はアンケートの集計と基本資料の作成です。ここでは、①各質問項目の5段階評価を重み付平均得点で代表し、それをレーダーチャートに表したもの、②自由意見のまとめ、③教員の見解の3点を全ての科目について作成し、基本資料集として冊子にまとめ学内で公表されます。ただし、各科目の評価結果を公表するにあたっては各教員の自由意志に基づいているため、冊子に載らない科目もあります。

第3段階は、アンケートの詳細分析結果を基にして、授業改善を行う際に役立つ情報の整理、改善の方法などをまとめ、各教員に情報を提供し、さらに教員同士が授業改善に関し討議、提案などをを行うFD(ファシリティ・ディベロップメント)の実践があります。これに関しては、今後の課題として、順次学内各種委員会の合意のもとに取り組む予定であります。

何分にも初めての実施でありますので、いくつかの難点に遭遇するかも知れませんが、不都合なところは順次改めて行き、この実施により本学における授業改善および教員の資質開発に貢献することが出来るこことを期待しております。

「学生による授業評価」の手順は大き

学園中期基本計画策定さる

新キャンパス計画に期待

中期計画策定の経緯

昨年末、本学園の中期基本計画が策定された。この計画は、大学の臨時定員増（臨定）の期限が終わり大学の新たな時代の始まる平成12年度を目指にまとめられたものです。

大学の新たな改革の時代に立ち向かう本学の基本戦略・戦術です。すなわち、学齢人口の恒常的な減少、高等学校教育の義務教育化、大学教育の大衆化、社会の構造変化、価値観の多様化、などの社会的変化に加え、臨定の期限（平成11年度末）を控え、更に本学園の抱える独自の諸問題等々に対する抜本的な対策を樹てるために、理事長は学園中長期計画策定委員会を昨年6月に設置しました。

この委員会は細井副学長を委員長に学園委員3名、大学委員10名、高校委員1名の計15名により構成されました。委員会は約6ヶ月の熱心な討議を経て中期計画案を報告書としてまとめ、教授会の報告後理事長に答申され、理事長はこの案を理事会にかけ、本学の中期基本計画として意志決定しました。本計画は今年よりプロジェクト組織およびワーキング・グループ組織の編成をまって実施に移されます。

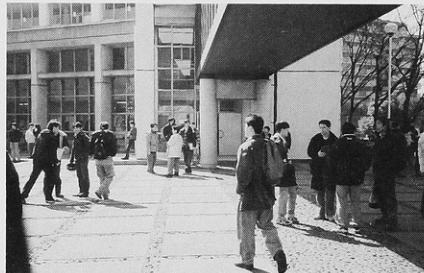
計画の骨子

この計画においては、最初に学園の状況について、大学及び高校の教育面及び学園の経営面から厳しく解析し、共通の基本認識をもつことの重要性を示しています。そして大学に関しては、魅力あるDIT（大同工業大学）創りのために、「今取り組むべき5つの課題」すなわち（1）教育の充実、（2）学生の活性化、（3）情報教育の充実、（4）研究活動の活性化及び（5）管理運営の効率化、を計画の基本として位置づけ、重点的な施策として（1）大学教育の魅力化に関する基本施策、（2）キャンパスの総合化による新キャンパス構想、（3）研究環境の整備、（4）大学院

（教育）の充実を、高校に関しては、（5）高校の魅力化に関する基本施策を、学園全体としては、（6）体質改善と体質強化のための基本施策、の6項目をあげ詳細に検討を加えています。

大学教育の魅力化に関しては、新学科（福祉工学系学科、環境工学系学科）設置の検討、学生の視点に立った魅力ある教育の体制の構築、高度情報教育の強化・充実等が計画され、さらに学生生活にゆとりを感じさせるアメニティ空間の構築と文化・福利施設の設置、就職指導の一層の充実が提示されています。また本学の歴史・立地を生かした特色ある教育・研究の実施の一環として、産業界との連携の積極的推進、社会人教育制度の強化・拡充（社会人のリカレント教育・生涯学習など）が示され、研究環境の整備としては、大型研究設備の集中管理体制の確立、企業との共同研究の推進などが計られています。大学院（教育）の充実として、飛び級制度、連携大学院方式の導入が示され、また企業からの学生受入の積極化が提案されています。高校の魅力化については（1）学科構成（2）進学指導（3）生活指導（4）設備面の充実などに関する具体案が出されています。

新キャンパスの構築



本計画の中心的な課題は新キャンパスの構築であります。魅力ある学園をつくるためには、教育・研究の場及び学生の日常の生活の場としてハード環境の整備は欠くことのできない重要な課題です。現在、大同、滻春、及び白水に分散している校



舎を第1期計画として滻春地区に統合（主として大同校舎の移転、白水校舎は第2期以降で検討）し、新キャンパス計画を推進することが提示されています。これにより、学内のさらなる高度情報ネットワークの構築、キャンパスのアメニティ空間の創造、福利厚生施設の充実、大学と地域の共生の場としての活用などが期待でき、21世紀における本学の発展の基礎固めができます。

高校のキャンパスについては、第2期工事として、大学・大同校舎の滻春地区への移転の後に、大学・大同校舎の高校用への改築を実施し、移転します。現在の高校校舎は取り壊し、跡地は高校専用グランドとして利用を図り、高校の活性化につなげます。予定は平成15年以降になる見込みです。

理事長の提言

1. 学生の視点に立脚した学園の構築

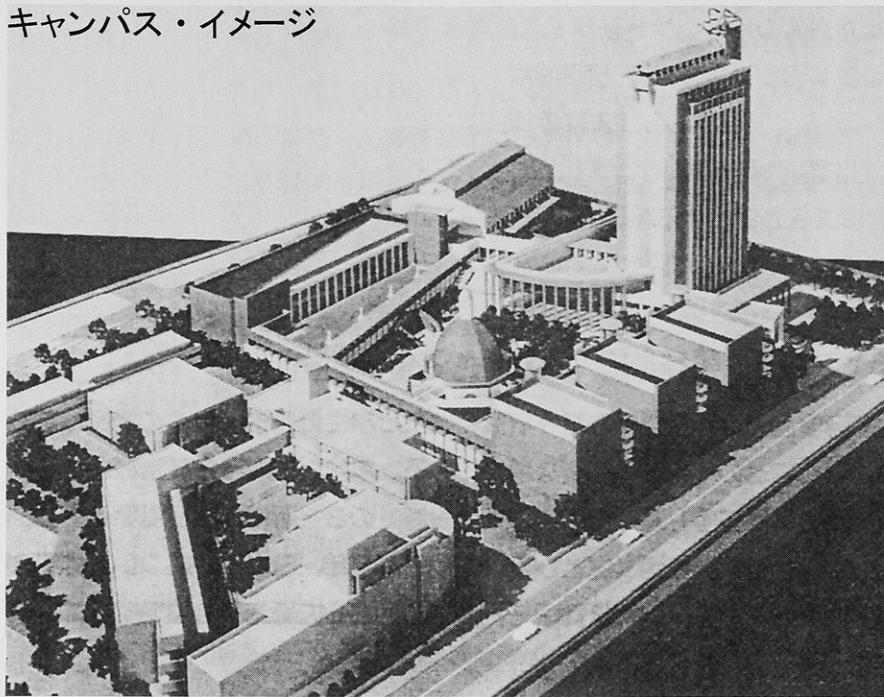
近い将来、入学志望者が全員入学を果たすことになる現実を踏まえ、従来の大学側が学生を選択するという概念を、根底から覆す必要があります。このことは学生に媚びたり、学生に迎合することは全く別次元であることは申すまでもありません。教育内容は勿論、キャンパス整備・学園運営など学生の視点に立って見直し、資源的制約はあるものの徹底的に改善をして行くことであります。教育内容・キャンパス環境が学生にとって魅力あることは必須条件であります。

2. 個性ある学園への特化

私学間の競争激化の中で、本学園の戦略は個性化にあると考えます。日本の産業が成熟化段階に達したとは言え、わが国の経済水準を維持するには、次の工業化段階を必要とすることは、識者の一致した意見であります。

本学は産業界の支持により創設され、連携のとり易い有利な条件下にあります。地理的条件にも恵まれ、産学協同に更に

キャンパス・イメージ



踏み込むべき時であります。幸い本学は優れた研究実績を有する教員を擁しております。研究の活性化を推進することによって、比較的小規模な学園の特性をも生かし、産学協同の実効を上げるこ

とによって本学の個性化は一層実現できるものと考えています。そしてこのことこそ、本学建学の精神に則った、実学に優れた有為な人材を育成することにもつながるのであります。



第19回 短期留学

参加者募集中

海外体験をし、
「国際事情」の単位取得を！

学術交流提携校（オレゴン大学／ノッティンガム大学）にて英語の学修および学内施設の見学を通して、実践的な英会話の修得と、自由研究・小旅行等により海外の生活体験・知識の拡大を図り、国際的教養を身につけよう！



インターネット講習会開催中

情報処理センター

の修得を目的に講習会を行っています。

電子メール利用講習会では、電子メールを利用したコミュニケーションツールとしての利用方法の修得を目的としています。本講習会の終了時には、受講者に電子メールアドレスが発行されます。

上記のサービスは現在のところ情報処理センターのオープン室を中心に利用が可能となっていますが、受講した利用者からは利用できるコンピュータの台数が不足しているとの指摘の声が多数寄せられています。

センターでは、これらの声を受け、本年10月更新予定の次期教育研究用電子計算機システムにおいて、センター以外の学内施設（自習室、図書館など）にセンターのサテライトとして、利用者が自由に利用可能なコンピュータを設置するよう計画を進めています。

大同工業大学
Daido Institute of Technology Nagoya Japan

大同工業大学のWWWサーバーへようこそ
平成9年度入試速報
志願状況、入試日程をお知らせします。

□全系必修科目
□各系必修科目
□各系選択科目
□各系選択科目
□建築学科
□建築工学科
□機械工学科
□機械工学科
□電気工学科
□電気工学科
□電子工学科
□電子工学科
□情報工学科
□情報工学科
□社会工学科
□社会工学科

情報処理センターでは、平成8年11月よりインターネット講習会を開催しています。

この講習会は、WWW (World Wide Web) 利用講習会と電子メール利用講習会から構成され、卒業や就職活動を間に控えた4年次生、3年次生を対象に実施しています。

WWW利用講習会では、インターネットで爆発的に利用者が増加しているWWWを利用した全世界からの情報検索方法

■アメリカコース■

8月14日～9月8日 (26日間)
オレゴン大学で約3週間の研修、ポートランド見学。

経費：約430,000円

■ヨーロッパコース■

8月23日～9月18日 (27日間)
イギリス・ノッティンガム大学で約3週間の研修、ロンドン見学。
経費：約450,000円

参加申込期間：平成9年1月20日～4月4日 (新入生は4月11日まで)

授業科目名：国際事情

募集人員：各25名

*日程・経費は4月に決定します。

*申込、詳細問い合わせは国際交流センターまで

就職

1. 平成8年度の就職状況

企業のリストラは続いているが、採用環境にも薄日がさし始めると予測されるなか、今年度の就職戦線がスタートしました。

2月頃から大手・中堅企業の業績改善を背景に、積極的採用を公表する企業が相次ぎましたが、その後の景気の伸び悩みから思ったほど就職環境は好転せず、量から質への厳選主義に終始しました。

本学の求人状況をみると、3月3日現在で、求人社数は2,756社と前年対比で9%増加しましたが、反面、求人数は6,796人で5%減少しました。

即ち、1社あたりの求人数が減少し、少数精鋭化のあらわれと思われます。

一方、内定率は98%となりました。

就職意欲のある学生については、最終的には全員内定するものと思われます。



また、大学院生の求人社数が318社857人（昨年183社428人）で前年対比57%増となり企業の大学院生への採用意欲がうかがえます。（全員内定済み）

雪解けと言われた就職状況も、企業の厳選採用は昨年同様に厳しく、推薦された学生であっても希望する学生の基準より下であれば、容赦なく不合格となっています。

2. 平成9年度の就職戦線予測

採用環境に大きく影響する今年の景気

■平成9年度就職指導スケジュール■

月 日	内 容
平成8年11月	就職適性検査及び第1回ガイダンス (本年度就職状況、進路調査)
11月	就職模擬試験(一般常識)
12月	第2回ガイダンス(理事長講話、先輩体験談、企業講師「こういう人材が欲しい」、就職の手引配布)
平成9年1月中旬	進路調査集約
1月中旬	就職能力試験(言語・数理)
1月下旬	大学院生ガイダンス(理事長・学長懇談会)
2月中旬	就職作文試験(論作文添削指導)
2月中旬	情報処理適性検査
2月下旬	第3回ガイダンス (就職登録票手続—最終希望企業調査、スケジュール)
3月	公務員試験対策教養講座(後期)
3月上旬	就職面接試験
3月上旬	就職登録票及び就職斡旋申込書の提出
3月下旬	就職登録票の整理及び各学科内企業調査
4月上旬	各学科内企業調整結果発表
4月上旬	求人申込書の発送
4月上旬	求人申込書の受付開始
4月上旬	求人申込書の学生への提示
4月中旬	第4回ガイダンス(面接指導)

※若干、早まる可能性がありますので、掲示をよく見てください。

動向は、消費税率引き上げ、国の財政難から公共投資の抑制方針とゆるやかな回復に水をさす要因が多く、好転することが望めません。

また、就職協定の廃止に伴い、採用方法の多様化等、企業側の動きが予測できない状態になってきています。

このような採用環境のなか、現3年次生においては、企業セミナー、説明会等の採用情報を資料請求、インターネット、就職情報誌などで早くキャッチするように心がけ、出遅れることのないよう就職活動をしてください。

また、インターネットによる資料請求及び登録が増える可能性がありますので、希望企業のホームページは必ず確認するようしてください。

3. 平成9年度の就職指導スケジュール

適性・模擬試験は、これから始まる就職活動に向け、自己分析の一つの判断材料として実施しています。

結果を十分活用し、不得意分野については特に勉強するようにしてください。本学の学生は、一般常識、時事問題が相対的に弱いですから、新聞の政治・経済面社説等をよく読むようにしてください。

今年、新たに、情報処理適性検査、就職面接試験を実施しました。さらに、第2種情報処理技術者試験対策講座を実施する計画をたてています。この講座については、現1・2年次生からの受講をお勧めします。

平成8年度 大同工業大学



平成8年度進路・就職状況

【平成9年3月3日現在】

1. 進路状況〈学部〉

注:()内は女子で内数

学 科	機 械	電 气	応用電子	土 木	建 築	計
卒業予定者数	230(3)	148(5)	119(5)	96(5)	105(15)	698(33)
就職希望者数	209(1)	139(4)	112(5)	89(5)	96(13)	645(28)
大学院進学希望	14(1)	3(1)	5	6	5(1)	33(3)
留学その他	0	0	0	1	1	2
委託学生	2	1	0	0	0	3
就職せず	3	0	1	0	3(2)	7(2)
未登録	0	2	0	0	0	2
専門学校・研究生	2	3	1	0	0	6

2. 就職状況〈学部〉 注:()内は女子で内数、〔 〕内は平成8年3月14日現在

学 科	機 械	電 气	応用電子	土 木	建 設	計
就職希望者数	209(1)	139(4)	112(5)	89(5)	96(13)	645(28)
内定者数	207(1)	136(4)	110(5)	88(5)	91(11)	632(26)
未内定者	2	3	2	1	5(2)	13(2)
内定率	99%	98%	98%	99%	95%	98%
	[100]	[98]	[97]	[100]	[98]	[99]

3. 求人状況〈学部〉 注:〔 〕内は平成8年3月14日現在

学 科	機 械	電 气	応用電子	土 木	建 設	計
8年度求人企業数	1569 [1450]	1295 [1281]	924 [872]	1040 [1221]	874 [1104]	2756 [2527]
8年度求人数	1738 [1682]	1499 [1456]	1052 [953]	1343 [1633]	1164 [1422]	6796 [7146]

4. 就職状況〈大学院〉 注:()内は女子で内数、〔 〕内は平成8年3月14日現在

専 攻	機 械	電気電子	建設	計
修了予定者数	19	15(1)	6	40(1)
就職希望者数	19	13(1)	5	37(1)
内定者数	19	13(1)	5	37(1)
未内定者数	0	0	0	0
内定率	100%	100%	100%	100%
	[100]	[100]	[83]	[96]
就職せず	0	0	1	1
進学希望	0	2	0	2

公開講座開催について

下記の通り開催致しますので、お知らせ致します。

1. テーマ 「謎の浮世絵師 東洲斎 写楽とその世界」

2. 日時と講座内容

①平成9年3月22日(土)10:00~12:00

- 「浮世絵 版画絵の成立とその流れ」
- ・浮世絵の知識
- ・東洲斎写楽の出現とその時代背景

②平成9年3月29日(土)10:00~12:00

「写楽の役者絵を観る」

- ・写楽絵の特徴と画歴
- ・他の浮世絵師の役者絵とその比較

③平成9年4月5日(土)13:00~15:00

「写楽に関する様々な謎」

- ・写楽は誰かについての諸主張
- ・写楽別人説 写楽写楽説

3. 講師 大同工業大学教授 高田和之

4. 会場 大同工業大学

大同校舎9号館 9403講義室

5. 受講料 無料

企業懇談会開催さる



さる2月25日、名古屋栄東急インにおいて、東海4県下の企業146社・160名の方々をお招きして、「企業と大同工業大学との懇談会」が開催されました。これは社会に開かれた大学を志向する本学が、産業界・民間企業との交流を図り、相互に有益な産学交流のあり方を目指すとともに、就職問題についても情報交換を行うというものです。

大学から、横井理事長、堀井学長、細井副学長以下役職者が出席し、大学の教育・研究の考え方、学科や大学院の紹介、共同研究や社会人教育案内、図書館の説明、就職状況や就職指導方針の説明と要請を行い、合わせて最近の話題として、ISO14000シリーズ（国際環境基準）の講演を行いました。また、企業3社から、業界の景気動向、必要とする人材像等の説明を頂き、その後、お互いに懇談し、3時間にわたる有益な懇談会を終了しました。

今回は、最初の懇談会でしたので、大学の説明が中心となりましたが、今後定期的に開催し、産学交流をより深めて行きたいと考えています。

6. 募集人員 100名

7. 申し込み方法・問い合わせ先

ハガキにご希望の講座番号（①②③）を明記の上、「氏名・年齢・性別・住所・電話番号・職業」を記入し、下記へお申し込みください。ファックスでも可。

大同工業大学

生涯学習センター事務室

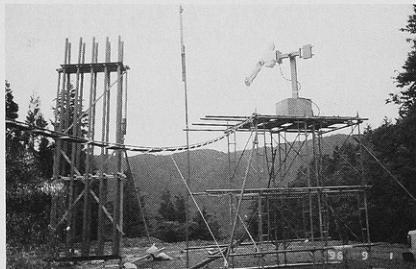
〒457 名古屋市南区滝春町10-3

Tel:052-612-6204

Fax:052-612-5623

学生も手伝った！

日本初の降雨ロケット、発射!!



ヨウ化銀 (AgI) をロケットで雲の中にまいて雨を降らせる我が国初の実験に、本学をはじめとする研究者のグループが取り組みました。実験の結果、ロケットの発射地点を中心に、発射数分後から約20分間の降雨が確認されました。このニュースは昨年の9月6日付『中日新聞』夕刊でも報道されました。

『中日新聞』夕刊でも報道されました。

実験には堀井学長と近藤教授（電気工学科）大東助教授（建設工学科土木工学専攻）のほか、電気工学科および建設工学科（土木工学専攻）より学生がそれぞれ2名参加し、他大学の研究者や学生と力を合わせました。

まず電気工学科ですが、93Eの杉山賢視くんによれば、同学科の学生が参加したのは9月2日から4日までの3日間。ロケットについては、「仕掛け花火の大掛かりなもの」というのが正直な感想だったそうで、うまい具合に発射させるのが難しそうに見えたとか。実験場の近くに仮設された小屋で合宿しながら、ロケットを発射台に仕掛けたり、時間の計測をしたり（杉山くん）、料理の腕前を見込まれてみんなの食事の世話をしたり（96Eの原くん）と、楽しい2泊3日の日程だったそうです。

続く建設工学科からは93Cの稻垣義樹くんと後藤厚哉くんが、8月21日のロ



ケット発射台組立から9月20日の実験終了まで、ローテーションを組みながら3回現地入りし、地形図を使いながら、降った雨がどこに流れたかなどを観測しました。1回の滞在は短い時で3・4日間、長い時で一週間に及んだとか。実験の成果について「ロケットはあらかじめ雲を狙って発射したので、仮に雨が降ったとしても、それがロケットの発射によるものか、自然の成り行きなのかがまだはつきりしていない。そのへんの解析が今後の課題」だとか。滞在中の苦労は「お風呂に入れないことと、みんなの食事の世話」だったそうです。

「国際公開講演会」報告

—立聴者もでる盛況—

平成8年5月23日(木)、名古屋ガーデンパレスに於て、本学主催の国際公開講演会が開催されました。

本学の提携校・アメリカ・オレゴン州立大学土木工学科のピーター・クリンジマン教授が、アメリカでの自然にやさしい川づくりの紹介のため来日されるのを機に、広く一般市民の方々にも聞いていただこうと、公開講演会の主催となつたものです。演題は、“子孫に残す新しい川づくり アメリカの事例を中心として”

本生涯学習センター・国際交流センターを中心に、後援：建設省、土木学会、愛知県・名古屋市教育委員会。協賛：(社)中部建設協会、(財)河川環境管理財団。200人参加予定のところ、280人の来場という盛況でした。



名古屋商工会議所主催 カレッジ・プラザ'96に参加



名古屋市にある工科系大学のアカデミック・パワーを、空洞化に悩む愛知の産業界の活性化に役立てるための産学交流イベントが昨年秋11月に開催されました。

本学からもつぎの7研究室が参加し、研究の成果を披露しました。各研究室からは教員の他に大学院生などがブースに出て、企業関係者の熱心な質問等に答えていました。

●本学参加研究室

《機械工学科》糸見研究室、大嶋研究室

《電気工学科》加藤研究室、近藤研究室、高田・茂吉研究室

《応用電子工学科》岩間研究室 和田研究室

塑性加工春季講演会 ・シンポジウム報告



平成8年5月10日～12日の3日間にわたり、本学の9号館において日本塑性加工学会・日本機械学会共催の塑性加工春季講演会が開催されました。講演会の登録者数は676名、延べ参加者約1800名、講演発表は254件と記録的な大盛会でした。2階のスペースでは、14社から出品された展示コーナーとポスターセッションが開催され、本学の学生も見学することができました。

10日には「冷間鍛造：精度はどこまであげられるか」をテーマとしたシンポジウムが9403講義室で開催され、参加者は229名もあり、補助椅子を使うほどの盛会でした。11日には三菱重工(株)名古屋航空宇宙システム製作所の山崎勲氏の特別講演「H2ロケットの製造」があり、また12日には「常識を破る技術（奇跡の実現）はどのように発想したか？」というテーマで若手技術懇談会が開かれました。

平成8年度 公開講演会開催される

去る2月18日(火)13時30分から公開講演会が生涯学習センターの主催で、地域に開かれた大学を目指して開催されました。

テーマに興味を示す地域住民や企業関係者および本学関係者および在学生の参加を得て開催され、好評のうちに終了しました。なお、開催場所、テーマおよび講師は、次のとおりです。

◎場 所：本学 大同校舎 9号館

◎テーマ：自動車の将来

◎講 師：本学 客員教授

(財)日本自動車研究所長

井 口 雅 一

同窓会
たより

「センチュリーフェスタ'96」 街づくりイベントに参加

7回目を数える恒例の夏の一大イベント「センチュリーフェスタ'96」が、平成8年8月8、10、11日の3日間、名古屋の街のど真ん中(中区若宮大通り公園)で開かれました。

同窓会は、本学・電気工学科加藤哲男研究室から数々の不思議な磁石の世界を展示紹介しました。また名古屋青年会議所主催の「夢いちば」にもPRブースを設けて同窓会の活動をもとに市民のみなさんと情報交換を行いました。



青山君の死亡事故について—その後

昨年5月19日(日)大学祭終了後ユースホステル部の打ち上げコンパにおいて、急性アルコール中毒のため死亡した青山智英君の事故について、昨年の7月4日イッキ飲み防止連絡協議会(加来仁代表)、アルコール問題全国市民協会(今成知美代表)が容疑者を特定しないまま「傷害致死罪と傷害現場助勢罪」で愛知県警に告発しました。

愛知県警は、この告発を受けて二度にわたりユースホステル部の学生や関係のOBに事情聴取を行い、昨年12月9日に新聞で報道されたとおり「犯罪としては立証困難」との意見書をつけて名古屋地方検察庁に書類送検しました。

近々名古屋地方検察庁から起訴、不起訴、起訴猶予等のいずれかの判断が示されると予想されます。

大学は、学内でこのような事故が起きたことを深く反省し、先に決めた諸施策を確実に実行し、二度とこのような事故が起きないように取り組む覚悟です。

学生諸君も教職員からの指導による防止策だけでなく、自主的に飲酒に対する自分自身の対応を考えて下さい。

青山君の靈に改めて深く哀悼の意を表します。

飲酒に関する基本施策

- 1 飲酒の強制は絶対にしない、させない。
イッキ飲みは、生命の危険を招く蛮行であり、厳禁する。
- 2 飲酒運転は絶対にしない、させない。

上記基本施策を中心に次の諸施策を随時行います。

《諸施策》

- ・新入生のオリエンテーション時における飲酒の指導
- ・クラブ委員会、「APPLES」等での飲酒の仕方に対する啓蒙活動
- ・A・Aセミナーや卒業研究、リーダースキャンプ、種々のセミナー等におけるイッキ飲み、過度の飲酒の厳禁等の指導
- ・保健室での“アルコール過敏症”的エック
- ・大学祭実行委員会への“イッキ飲み”厳禁の徹底 等

必ず守ってほしい飲酒の6カ条

- 1 イッキ飲みは決してしない、させない
- 2 飲めない人に酒をすすめない
- 3 体調が悪い日、薬を飲んでいるときは飲まない
- 4 食べながらゆっくり飲む
- 5 「飲める人」でも「ほろ酔い」段階できりあげる
- 6 飲んだら乗らない、乗らせない

平成9年度 卒業研究テーマ一覧

◆ 機械工学科 ◆

指導教員	主な研究課題テーマ
杉浦 正勝	◎画像処理によるモアレ干渉法の基礎的研究 ◎異種接合材における応力波伝ば挙動の研究
和田 均	◎PMMA材に対する動的破壊靶性の測定に関する研究 ◎落錘式衝撃引張試験法に関する研究
高藤新三郎	◎チタン合金の高温疲労強度 ◎オーステンバ処理球状黒鉛鋳鉄の長寿命域における疲労強度
近藤 嶽	◎ドリーリング専用機の設計 ◎タッピング専用機の設計
中村 肇	◎平行平板間内移動現象の研究（実験と数値計算） ◎フィン付潜熱蓄熱器の最適性の研究（実験と数値計算）
山田 廣也	◎自動車槽型における流れと渦構造 ◎タービン翼列における冷却流の特性
伊藤 昇一	◎断熱超過エンタルピ火炎における消炎限界について ◎メタン代替え燃料による内燃機関の性能について
松浦 章裕	◎垂直平板近傍の電解気泡径分布の測定 ◎気泡塔内気液二相流速度分布のLDVによる測定
市川 武久	◎放射乱流の構造に関する熱線流速計計測による実験 ◎熱線流速計の速度センサーに関する研究
矢野 治久	◎複合乱流に関する実験的研究（自由噴流の乱流構造） ◎複合乱流に関する実験的研究（せん断層の乱流構造）
細井 祐三	◎地球資源節約型ステンレス鋼の合金設計 ◎自動車排ガス装置用ステンレス鋼の高温特性
中島 浩衛	◎鉄鋼材料の熱間加工における動的変形抵抗と組織予測 ◎圧延加工における圧延特性と摩擦現象
小野 宗憲	◎アルミニウム合金鋳造材の材質改善に関する基礎的研究 ◎アルミニウム合金の複合鍛造に関する基礎的研究
土田 豊	◎環境材料（耐火鋼材）の高温強度特性 ◎高温構造材料の強度特性と組織安定性
青山 正治	◎コンピュータ画像処理による金属表面腐食形態のフラクタル解析評価法 ◎産業技術の黎明期における機械技術発展に関する研究
小森 和武	◎引抜き加工時の内部割れ ◎せん断加工時の破壊過程
井上 孝司	◎高硬度材料・快削鋼等の切削特性 ◎金属間化合物材料の被削性と切削メカニズムの解析
藤井 省三	◎適応スイッチング法によるクレーンの搖れ止め制御 ◎種々の手法によるロボットの高速・高精度な軌跡制御
糸見 和信	◎振動式部品搬送機器の振動挙動の研究 ◎衝撃式電動工具の衝撃挙動の研究
西堀 賢司	◎超音波モータを用いたロボットアームの制御 ◎ロボットアーム用触覚センサの開発
大嶋 和彦	◎メカトロニクス機器のマイクロ化を目指したセルフセンシング・アクチュエータ ◎小型ソーラーカーの試作
池田 洋一	◎有限要素法によるモータ振動解析 ◎「工学実験」用振動モデルの開発

◆建設工学科 土木工学専攻◆

指導教員	主な研究課題テーマ
事口 壽男	◎構造解析の解析手法に関する研究（個別要素法、J積分法等） ◎電気化学理論を用いた金属の腐食に関する研究
久保田 稔	◎水制周辺の流れ場構造 ◎マリンレジャーボートによる側岸侵食への影響
下島 栄一	◎酸性雨の化学特性とその成因に関する観測的研究 ◎地面蒸発と塩類集積の相互作用に関する実験的・数値計算的研究
桑山 忠	◎電気炉スラグによる浚渫土の土質改良 ◎超音波照射によるセメントの水和反応の促進
水澤 富作	◎構造解析に関する研究 ◎橋梁設計
舟渡 悅夫	◎住宅団地における違法駐車の実態とその対策案の樹立 ◎都市におけるオープンスペースの効用に関する研究
酒造 敏廣	◎鋼製橋脚の地震応答特性に関する実験と理論解析 ◎地震波の特性に関する数値分析
大東 憲二	◎濃尾平野における広域地盤沈下防止と地下水資源利用を考慮した地下水管理計画 ◎渇水対策としての誘導ロケットによる人工降雨の試み
鳴田 喜昭	◎自然災害に強い道路網計画に関する研究 ◎高齢社会に向けたまちづくりに関する基礎的研究

◆建設工学科 建築学専攻◆

指導教員	主な研究課題テーマ
斎藤 辰彦	◎ハイブリッドプレファブ工法の基礎的研究 ◎兵庫県南部地震による木質系建築物の被害に関する調査研究
渡辺 雅生	◎高層建築の地震応答性状に関する研究 ◎パソコンを用いた構造設計とその考察
太田 福男	◎火害コンクリートの劣化メカニズムに関する研究 ◎マイクロ波によるコンクリート中の鉄筋錆程度推定に関する研究
山本 俊彦	◎超高強度コンクリートの製造方法に関する基礎的研究 ◎表面から乾燥を受けるコンクリートの曲げ強度に及ぼす断面内部応力の影響に関する実験的研究
瀬尾 文彰	◎環境の意味論的構造に関する研究 ◎都市のイメージ構造に関する研究
笠嶋 泰	◎住居平面に関する研究 ◎外部空間構成に関する研究
五島利兵衛	◎アーチの施工実験 ◎石造建築の設計方法に関する研究
佐藤 達生	◎日本および西洋建築の様式史的研究 ◎建築形態の造形手法に関する研究
宮路 榮二	◎生活環境の調査分析 ◎建築設備
稻垣 卓造	◎建築の外部色彩の評価・・・模型実験 ◎既存建築における色彩設計の再提案

◆電気工学科・応用電子工学科◆

指導教員	主な研究課題テー マ
佐橋 稔雄	◎電子顕微鏡を用いた、放電爆発で作った金属微粒子の観察 ◎ミリカンの方法による電気素量の測定
近藤 芳孝	◎フロンと電子の全衝突断面積の測定 ◎電子によるフロンの電離断面積の測定
山田忠比古	◎フロンのBreak Down現象 ◎フロン分解装置の開発
日置 義明	◎微粒子-プラズマ相互作用 ◎プローブ測定回路とシステム作制
中井 靖男	◎走査型トンネル顕微鏡の製作
大石 弥幸	◎人間の音色知覚能力 ◎室の残響特性
神本 勝巳	◎交流発電の電圧制御 ◎3相誘導電動機の正弦波駆動の特性
愛知 久史	◎種々の接触形態における接触抵抗特性 ◎電解溶液を用いた接触子モデルによる接触抵抗現象の解析
西村 政信	◎有彩色ルーバ証明の計算法 ◎昼光と日射データの収集及びデータ解析
高田和之・茂吉雅典	◎作業負担と姿勢変化に関する心拍変動 ◎自己回帰モデルより推定したインパルス応答関数による心拍変動性
関谷 昌久	◎小型空気清浄装置の開発 ◎パルスパワー放電による薄膜作製技術の開発
藤田 順治	◎プラズマ基礎実験、放電によるプラズマ生成と分光・プローブ測定 ◎レーザーを用いた実験、干渉、散乱計測、局部加熱実験
和田隆夫・藤本博	◎半導体の超拡散 I・II
稻垣 米一	◎野外樹木の生体電位 ◎仮想植物
美濱 和弘	◎レーザーによるフーリエ変換 ◎薄膜の電気抵抗
岩間 三郎	◎F G E法で作るナノ粒子の構造と物性 ◎R Fスパッタ法による半導体及び複合半導体薄膜の作製と電気伝導
三品 善昭	◎住環境騒音に関する調査及び分析
金児 壮至	◎電子サイクロトロン共鳴現象によるプラズマの生成 ◎表面波によるプラズマの生成
横手 裕治	◎スイッチトキャバシタ方式データ変換器の製作
早川 謙二	◎ガス中蒸発法による微粒子の作製と評価 ◎イオン源・分析回路の作製と測定
草加 勝司	◎焼結FeCr系磁性合金 ◎FeCr磁性合金の動磁気特性
堀尾 吉巳	◎反射高速電子回折装置及び、それによる半導体結晶表面の研究
(学内他教室)	
水野 義雄	◎視覚刺激が脳波に与える影響
松浦 均	◎交通に関する危険要因についての心理学的検討及び問題解決への提案
服部 文彦	◎ニッコロ・マキャベリのデータベース化、主要著作のコンコーダンス作成
鳥野 壽章	◎生体情報の解析 ◎仮想計算機の設計
市古 忠利	◎生体材料(人工骨)の開発 ◎薬石(麦飯石)の解析とその応用
神保 瞳子	◎磁性人工格子 I・II

この他に工業技術院名古屋工業技術研究所、名古屋市工業研究所、日本ファインセラミックスセンター、大同特殊鋼・中央研究所などの研究施設の整ったところで指導してもらえる卒業研究を選択することも可能です。

「ホームページコンテスト」個人の部で 応用電子工学科 青木賢太郎君が 金賞に選ばれる



インターネットを通じて発信するホームページの見やすさや楽しさを競う初めての試み「ホームページコンテスト」が名古屋市および名古屋市産業振興公社の主催で行われ、本学応用電子工学科4年次生青木賢太郎君が個人の部で金賞に輝きました。

その作品は、「Ke TAMAGO」と題し、七つの卵の中に隠された自作のイラストやゲームプログラム、



93D001
青木賢太郎君
(岐阜工業高校出身)

音楽、絵などを一つひとつのぞいていくという内容です。卵のイメージをうまく生かした工夫と楽しさが評価されました。なお、このコンテストは、ホームページの作成技術向上などを目指す新しいタイプのもので、自治体では初めての試みでした。

このホームページ「Ke TAMAGO」は、なごやネット「<http://www.u-net.city.nagoya.jp/>」からアクセスすることができます。

平成9年度 教員の学外研究助成金・受託研究等について

平成8年4月から平成9年1月末までに本学の研究者への助成が決定した学外助成金及び民間企業等からの受託研究等は、次のとおりです。

【学外研究助成財団等からの研究助成金】

学外の研究助成財団などからの研究助成金です。全国から多数の研究者が応募しますので、採択されるのはなかなか大変です。

助成機関	研究者	助成金額	研究テーマ
(財)天田金属加工機械技術振興財団	小森 和武	120万円	FEMによるせん断加工の数値シミュレーションプログラムの開発
(財)市原国際奨学財団	井上 孝司	50万円	金属間化合物材料の切削加工に関する研究

【共同研究】ここでいう共同研究とは企業等と特定の研究テーマに関し共同で研究するものです。

相手機関	本学研究者	相手機関から提供を受ける経費	研究テーマ
一般企業	金児 壮至	20万円	マイクロ波誘電体セラミックの材料特性評価

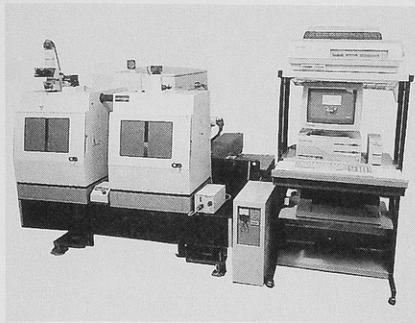
【受託研究】受託研究とは、企業等から特定の研究テーマに関し研究を委託されるものです。

委託者	研究担当者	受託研究費	研究テーマ
一般企業	太田 福男	31.5万円	マイクロ波による鉄筋コンクリート
一般企業	関谷 昌久	30万円	円筒型集塵装置の電気的メカニズムの研究
一般企業	中島 浩衛	60万円	圧延材の反りと蛇行に関する基礎研究
新土質改良材開発研究会	桑山 忠	200万円	鉄鋼スラグを活用して建設残土浚渫土等の土質を改良する基礎研究
一般企業	山本 俊彦	100万円	鉄筋コンクリート造梁せん断補強筋の配筋方法に関する研究
一般企業	和田隆夫・藤本 博	80万円	半導体および金属の超拡散(電子ビームドーピング)
一般企業	太田 福男	60万円	電気炉還元スラグの高強度コンクリート用骨材としての適用性に関する研究
一般企業	加藤 哲男	80万円	鉄・ニッケル磁性合金円筒による磁気シールドルーム孔補償効果に関する研究
一般企業	神保 瞳子	80万円	アモルファススピンドルブロード膜の熱安定性
一般企業	市古 忠利	80万円	アパタイト/チタン系複合インプラント材料の開発に関する研究
一般企業	細井 祐三	50万円	Fe-Cr-Al合金のスケール密着性
一般企業	中島 浩衛	80万円	鉄鋼材料等の熱間加工における組織予測と制御
一般企業	小野 宗憲	50万円	前方・後方組合せ押出しにおける割れの発生予測
一般企業	小森 和武	80万円	多パス三方ロール圧延の汎用シミュレータの開発
一般企業	中井靖男・早川謙二	80万円	CVDヘテロエキピタキシー・ダイヤモンド薄膜成長初期過程の制御
一般企業	西堀賢司・大嶋和彦	80万円	単相駆動による円筒形超音波モータを用いたロボットアームの開発
一般企業	中村 肇	50万円	MOCVD装置を対象とした平行円板間内移動現象の研究
一般企業	和田 均	50万円	各種工業材料の衝撃強度に関する基礎的研究
一般企業	杉浦 正勝	50万円	モアレ干渉法による応力・ひずみ解析に対する画像処理の応用
一般企業	高藤新三郎	50万円	Ti合金の疲労強度に及ぼすショットピーニングの影響
一般企業	大東 憲二	110万円	液状化対策としての地下水位低下の実験的および理論的研究
一般企業	稻垣 米一	120万円	誘電体電子物性の研究
一般企業	中島 浩衛	50万円	熱間圧延におけるワーカロールの表面損傷に関する研究
一般企業	市古 忠利	70万円	セラミックス押出しハニカム成形品の製造に関する研究

【奨学寄付金】企業等から研究活動への寄付です。

寄付機関	寄付の対象研究者	寄付金額	備考
一般企業	神保 瞳子	100万円	
一般企業	小野 宗憲	50万円	
一般企業	神保 瞳子	200万円	
一般企業	瀬尾 文彰	300万円	

平成8年度国庫及び愛知県補助金の交付状況



平成8年度の国庫金および愛知県補助金の交付状況をお知らせ致します。

科学研究費では、4件が採択されました。その内容は、次の通りです。

まず、「基盤研究B」として建設工学科土木工学専攻・事口壽男教授の「非弾性地震応答性状を考慮した鋼変断面ラーメン部材の断面構成法の開発」の1件。次に「基盤研究C」として数学教室・瀬川重男教授の「正則函数及び調和函数の境界挙動の研究」、応用電子工学科・岩間三郎教授の「F G E法で成長するメスコピック粒子

の結晶学的評価」そして、建設工学科土木工学専攻・酒造敏廣助教授の「繰り返し2軸曲げを受ける鋼変断面橋脚柱の非弾性地震応答性状に関する研究」の3件でした。

次に、私立学校施設整備費補助金は、応用電子工学科・和田隆夫教授の「レーザーラマン分光光度計」と情報処理センターの「大同工業大学キャンパス情報ネットワーク」の2件。また、私立大学等経常費補助金特別補助は、情報処理関係設備として、「研究・教育用電子計算機システム」の1件。特色ある教育研究の推進として建設工学科土木工学専攻・山本俊彦教授の「地震時の構造物崩壊現象の実体験を重視した構造安全性に関する研究」と機械工学科・CAD教室の「機械設計における情報処理ができる技術者の養成教育」の2件が採択されました。

愛知県からの経常費補助金は、97万1千円でした。この補助により教育研究設備の充実が計られました。

◆ 平成8年度国庫金等補助金交付状況一覧 ◆

補 助 金 名	件 数	補助金交付金額
科学研究費補助金	4 件	4,600千円
内訳 { 基盤研究B	1 件	1,100
基盤研究C	3 件	3,500
私立学校施設整備費補助金	2 件	23,830
私立大学等経常費補助金特別補助	3 件	41,490
内訳 { 情報処理関係設備	1 件	33,990
特色ある教育研究の推進	2 件	7,500
愛知県経常費補助金		971
合 計		70,891

学部3年から 大学院へジャンプ

飛び級進学の制度できる

優秀な学生には少しでも早く大学院での教育を受けられるように、学部の3年生終了から修士課程へ「飛び級」進学ができるようになりました。

規則では、3年生終了段階で卒業研究履修の資格を取得でき、かつ成績の

4分の3以上の優があることが条件です。願書受付は3年後期の成績が出る前の2月ですから、条件を満たせる「見込



新年度から 連携大学院方式 を導入

大学院と 学外研究機関との 提携進む

大学が大学の中の限られた世界で教育を行う時代は過去のものとなろうとしています。

その一つが「連携大学院方式」と呼ばれるものです。これは、国公立の研究機関や企業の研究所と提携（正式に協定を結びます。）し、本学の大学院学生がその研究指導を受けるものです。指導を受ける学生は、本学にない研究設備を使用し、本学にない分野の研究者の指導が受けられます。この場合、それら研究機関の研究者は、（本学での資格審査の上）本学大学院の客員教授になります。ですから、本学の大学院が教員と設備の両面で大きくなつたのと同じことです。

私立大学ではまだ東京理科大学などわずかの大学でしか導入されていない最新のシステムです。本学は本年4月スタートに向けて現在、工業技術院名古屋工業技術研究所、財団法人ファインセラミックスセンター、大同特殊鋼・技術開発研究所と提携の話し合いを進めています。今後さらに多くの研究機関と提携をしてゆく方針です。

み」があれば、出願できます。首尾よく条件が満たせたら進学できます、という制度です。

この春3年になる諸君、ぜひ頑張って成績を上げ、修士課程「飛び級」進学にチャレンジしてください。また、まだ1年生の諸君は、2年後にチャレンジできるよう、今から長期計画で取り組んでください。

なお、具体的には、先生に尋ねるか、6・7月ころに出る出願の案内を見て下さい。

INFORMATION

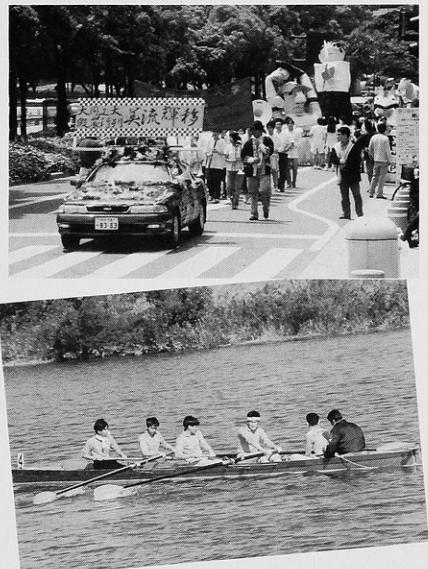
学生相談室の設置

心の悩みを持った学生のよりどころとなる学生相談室を新年度より開設します。ここでは専門のカウンセラーの相談も受けられます。

この施設は防音・空調が完備されていますので、外部を気にすることなく安心して相談を受けることができます。

青年期に悩みを抱え、学業などに集中できない…などということは決して恥ずかしいことではありません。ほんの少しだけ勇気を出して相談室のドアをノックしてみませんか。相談の受付は直接相談室か、保健室までどうぞ。

平成8年度 学生行事結果報告



<4月> 新入生歓迎会

明徳短大および本学の新入生が庄内緑地公園に集い、バーベキューを囲みました。

<5月> 大学祭

全ての日程が良い天候に恵まれましたが、最終日に痛ましい事故が発生しました。悲劇を二度と繰り返さないのが全

学共通の願いです。

<10月> 体育大会

新種目のバスケットボールが加わり、新しい盛り上がりを見せました。

<11月> 学内レガッタ大会

クラブや卒業研究などの仲良しが庄内川に参集し、息の合った(?)リズムでボートを楽しみました。

<1月> スキースクール

雪質満点のゲレンデで4日間にわたるスキーライフを楽しみ、スキル・アップしました。

木曽駒ゼミナーハウス フレッシュオープン



木曽駒ゼミナーハウスは本学が運営する唯一の学外研修施設として昭和44年に開設されました。

木曽駒福島駅の東方約8kmの木曽駒高原に立地しており、自然環境あふれるロケーションで、これまでにも数多くの学生や卒業生たちに親しまれてきました。

そんなゼミナーハウスが昨夏から大規模な改修工事を行い、2月より装いも新たに利用できるようになりました。改修後の要点などは次のとおりです。
多くの皆さんの利用をお待ちしています。

①大室の廃止と和室の増設

和室を6室に増強したため、少人数での利用がさらに快適なものになります。

②調度品の大幅グレードアップ

和室の調度品は旅館なみ、研修室兼食堂のそれはホテルなみのグレードに大幅アップ。ともに実りのある研修と会話が弾みそうです。

③トイレ・洗面所・浴室の全面改装

トイレおよび浴室はすべて男女別に設置されるようになります。洗面所も清潔度がアップしました。

④使用料 (1人1泊) ・食費 (1人1食)

	使用料	食 費
学園内 〔学園の学生・生徒〕	1,000円	朝食 500円
学園内 〔学園の教職員〕	2,000円	
上記が同伴する家族		夕食 2,000円
卒業生 〔同伴する家族を含む〕	3,000円	
学園外	4,000円	

※別途消費税が必要です。

⑤利用方法

使用する1ヶ月前から5日前（郵送の場合は10日前）までに学生課へ「木曽駒ゼミナーハウス使用願」を提出して下さい。

学生課で「使用許可証」を交付しますので、現地到着時に管理人に提出して下さい。使用料等は4月より現地精算となります。

学位取得

おめでとうございます

松浦章裕講師 (機械工学科)

平成8年3月 九州大学から博士（工学）の学位を取得

論文「垂直平板上の気液2相流中移動現象に関する研究」

服部洋兒講師 (一般教養)

平成8年7月 名古屋大学から博士（医学）の学位を取得

論文「Effects of asymmetric dynamic and isometric liftings on strength/force and rating of perceived exertion」

